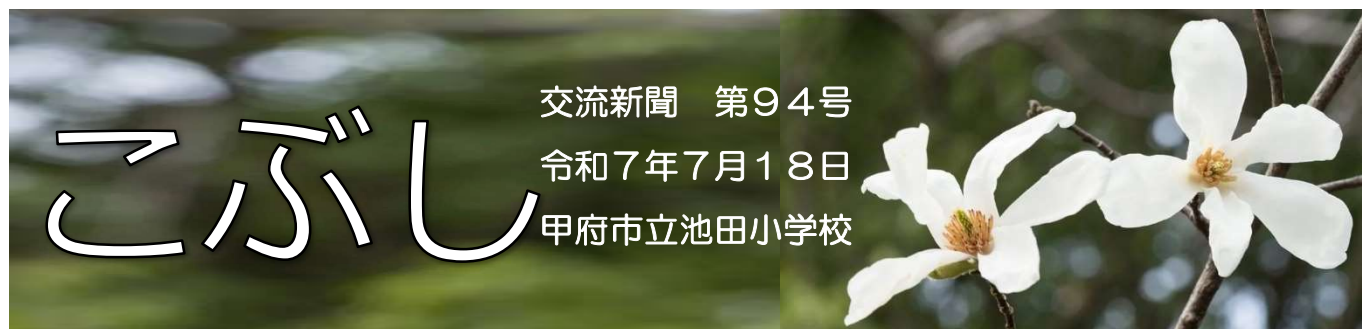




多様な人々と協働してよりよく生きる力を育む

池田小学校 校長 新田 修

グローバル化や情報通信技術の進展，少子高齢化等，変化が激しく先行きが不透明なこれからの時代を生きていくために必要な資質・能力を，子どもたちにはしっかり身につけてほしいと思います。その力の一つに「他者との協働」があります。学習指導要領の前文には，育成を目指す児童の姿について，次のような記述があります。

「これからの学校には，こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ，一人一人の児童（生徒）が，自分のよさや可能性を認識するとともに，あらゆる他者を価値のある存在として尊重し，多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え，豊かな人生を切り拓き，持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。」

また，各地域において，地域の資源や人の多様性を活かしながら，人と人，人と社会がつながり合い，誰もが支え合う「地域共生社会」を目指した取り組みが進められています。

子どもたちに，お互いを尊重しながら多様な他者と協働し，自分のよさや可能性を生かしてよりよく生きていく力を確実に身につけさせていくために，今年度，池田小では「つながる」を合い言葉の一つとして，学校，保護者，地域と連携しながら取り組みを進めています。校内研究とも連動し，特別活動を中心に日々の生活の中で話し合い，交流する活動を行いながら，授業の中にも協働的な学習を積極的に取り入れ，他者をつなぐ力の育成を目指しています。

長い歴史のある，県立甲府支援学校，県立盲学校の両校との交流及び共同学習も，それぞれの児童にとって経験を深め，社会性を養い，豊かな人間性を育むとともに，お互いを尊重し合う大切さを学ぶ大変重要な機会となっています。今年度も学年毎に交流を行っています。工夫された楽しい活動の中で，お互いの素敵なところをたくさん見つけ，心のつながりを深めることができます。この交流及び共同学習は，人々の多様な在り方を理解し，共に支え合う意識の醸成につながっています。

池田地区は地域全体で子どもたちの成長を支えていただいております。本当にありがたく思っています。様々な場面で多くの方々からお声かけいただき，子どもたちの社会性が育まれていると思います。今年度も引き続き，池田地区の皆様との様々なつながりの中で，子どもたちが他者をつなぐ力を身につけ，未来に向かって健やかに成長できるよう，ご支援，ご協力をよろしくお願いいたします。

池田小 特別支援学級 自立活動の紹介

新しい「なかよしカレンダー」を作ろう

～ 一人一台端末を使って ～

池田小学校
特別支援コーディネーター
小澤 勇司

GIGA スクール構想によって一人一台端末が実現し、子どもたちが本格的に Chromebook を使って学習する姿が、池田小学校では至極当然の日常となりました。児童も教職員も「Google Workspace for Education」の恩恵を受けています。

特別支援学級では例年、自立活動の時間で「なかよしカレンダー」を作っています。令和6年度は、その一人一台端末を使用してその「なかよしカレンダー」をデザインしました。本校の支援学級児童がどのように活動したのかを紹介します。

一昨年度までに作成した「なかよしカレンダー」は、児童がのびのびと描いたイラストと暦が一体化していて、非常に実用性に優れたものでした。その活動のなかで児童のICT利活用能力の向上が目指せないかと考え、「デザインツール」を導入することによって、従来とは違ったカレンダーを目指してこの自立活動を計画しました。

活動の目標は以下の通りです。

- ・カレンダー作りを通して、保護者とかかわりながら協力して活動することができる。
([2]人間関係の形成①他者とのかかわりの基礎に関すること②他者の意図や感情の理解に関すること)
- ・保護者と一緒に季節にふさわしいイラストや画像を検索する活動を通して、さまざまな言語概念を身につける。([3]環境の把握⑤認知や行動の手がかりとなる概念形成に関すること [5]コミュニケーション)

一人一台端末でWeb上の素材を利用すれば、たくさんの「グラフィック」(利用できるイラスト)が出てきます。そして「写真」についても同様です(下の画像参照)。これらを組み合わせると、デザインができあがります。



この活動にはいくつか課題がありました。小学生である6歳から12歳までの児童たちは人生経験が浅く、「季節感」に合った画像が分からない場合もあると思われました。また、何かを「デザインする」という活動は児童にとっては経験が浅く、一人ひとりの「デザイン感覚」を大切にしながらも、使ってくれる人のことを考えて作ることはまだ意識が向けられていない児童もいます。さらに季節折々の画像を探しながらも、児童が自分の好きなものばかりを入れすぎてしまうことも考えられ、嗜好に偏りすぎない調和の取れたものを作るための配慮が必要となってきます。そこで、土曜参観のときに保護者に付き添ってもらい、一緒にカレンダー画像を作成できるように学年通信で協力をお願いしました。

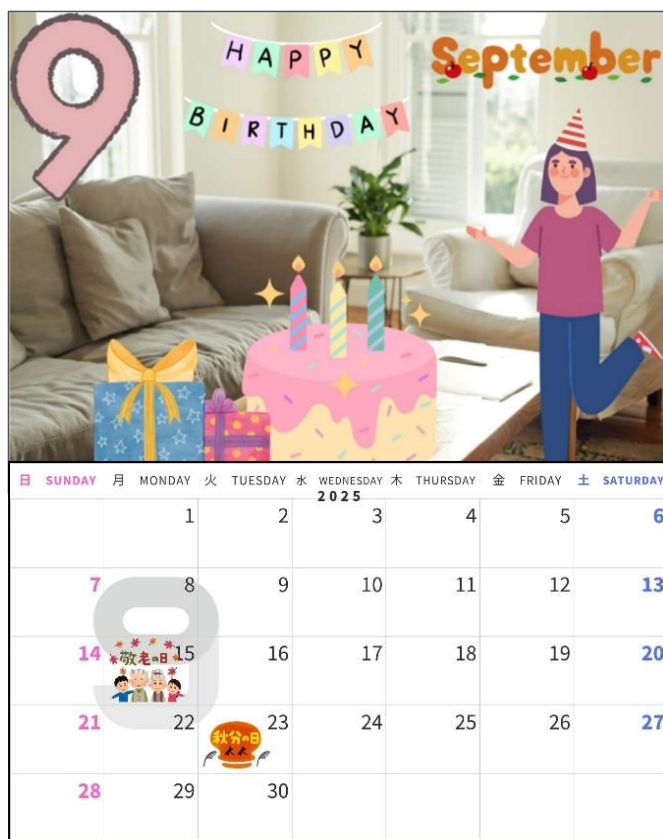
実際の授業ではクロムブックは児童が操作し、季節の画像を検索する言葉については保護者がアドバイスしながら、親子でカレンダー作りに取り組みました。授業では自信をもって活動している児童や、一緒に作業を行うことを楽しんでいる保護者の姿がたくさんあり、家族のほんわかとしたかかわりがうまれました。

また絵を描くことが苦手だった児童がいきいきと自分好みの画像を検索して探し出したり、写真やイラストの配置を考えたり、また印刷プレビューを見て俯瞰して全体のバランスをデザインしたりしている姿があり、主体的に活動している様子を見取ることができました。

「季節感」という児童にとって難しいと思われた内容でも、保護者と一緒に活動することによって充実した学びになりました。年度末、完成したカレンダーに喜ぶ児童たちの姿に、支援学級担任一同は胸を熱くしてしまいました…。



【授業参観の様子】



【完成した今年度のカレンダー】